

令和5年度第1回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時 令和5年5月29日(月)
10時00分から12時00分まで
開催場所 狭山市役所6階 603・604会議室
出席者 横山委員 石塚委員 八瀬邊委員 今福委員
齊藤委員 黒川委員 小熊委員 恵比寿委員
中間委員 河口委員 橋北委員 菅野委員
田中委員 平岡委員 上西委員 田ノ上委員
欠席者 佐野委員 鈴木委員 角田委員 中谷委員
事務局 内藤生涯学習部長 關根生涯学習部次長兼教育総務課長
石井社会教育課長 小高 小暮 三ツ木
傍聴者 0名

1 開 会

2 あいさつ 部 長

3 あいさつ 横山議長

4 議 事

(1) 報告事項

ア. 令和4年度事業実績について

令和4年度社会教育関連事業実施状況について、事務局が概要を説明した。

議 長 二十歳の集いについて、表の下の注釈に令和3年度は2回挙行了たとあるが、特段、対象年度を分けて開催したのか。

事務局 対象年度を分けて開催した。第67回成人式は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により延期とした令和2年度の新成人を対象とした式典を11月に、第68回は令和3年度の式典を1月に実施したもの。

委 員 生涯学習まちづくり出前講座について、令和4年度の利用回数が226件となっているが、回数の多かったベストスリーを教えて欲しい。

事務局 1番は交通安全教室で、176回、19,349人、2番は消費生活センターの暮らしの移動教室で、6回、226人、3番は奥富環境センターの施設見学会で、2回、147人であった。

委員 この資料の数値は、コロナ禍にあった令和3年度とコロナが落ちついた4年度の比較となっている。コロナ禍以前の数値と比べると、元にもどったといえるのか。参考までに教えて欲しい。

事務局 令和元年度の数値とすると、二十歳の集いは、出席者数が1,039人で、出席率73.58%であった。また、生涯学習情報コーナーは、360日開設し、来場者は13,811人であった。他の事業についても概ね7~8割の人数にもどっていると推測している。

イ. 狭山市人権教育推進協議会会則の一部改正の結果報告

狭山市人権教育推進協議会の活動状況等に鑑み、現行の委員定数を改正(32名以内を15名以内とする)したことについて、事務局が概要を説明した。

(2) 協議事項

ア. 各種委員の選出について

狭山市人権教育推進協議会会員について、任期満了により新たに1名を選任いただきたい旨を事務局が説明した。

議長 各種審議会等の委員については、昨年、委員各自の希望を聞いて決定した。今回、狭山市人権教育推進協議会会員の改選となるが、引き続き八瀬邊委員にお願いしたいが、どうか。

委員 拍手を持って了承

イ. 社会教育関係団体に対する運営費補助金について

社会教育関係団体運営費補助金について、補助金を交付している3団体の概要と主な活動、また、各々の団体の令和4年度交付確定額と令和5年度の交付予算額等を事務局が説明した。

議長 現在、3団体に補助金の交付事務を行っているが、この会議の手続きとして、令和4年度の補助金確定額と5年度の予算額ともに承認するというところでよろしいか。

事務局 その通りである。

委員 狭山市ボーイスカウトガールスカウト連合会に対する補助金についてであるが、補助金の割合が87.6%となっている。一年前のこの会議でも議題となった。昨年の議事録を見ると、「補助金の交付に当たっては、収支に占める自己財源を多くしてもらうように指導していくという認識でよいか。」という委員からの質問に対し、「その通りである。」と事務局は答えている。昨年どういう指導をして、今年また令和4年度と同様の金額になったのか説明して欲しい。

事務局 ボーイスカウトの補助金については、狭山市ボーイスカウトガールスカウト連合会補助金交付要綱にしたがって、今年度の予算額を資料に掲示している。昨年度の補助金の報告の際には、活動内容を聞くとともに、今年度の活動については、コロナ禍も明け活動ができるようになるので、自己財源を工面して欲しい旨を説明した。交付申請はこれからなので、内容は確定していない状況である。申請があった時には、内容を精査したい。

委員 今年度の内容ではなく、去年一年をかけてどのような指導を行っているのかを聞きたい。委員会として令和5年度に160,110円を交付する予定としているのではないか。どうして4年度と同じ金額になるのか。

事務局 昨年度については、自己財源を確保するためにイベント等に参加して欲しい旨を話しているが、コロナ禍において子ども達の参加が難しかったとの話も伺っている。今年度については、協賛金を得ることやイベント等の参加などにより自己財源の確保に努めて欲しいと話している。

委員 そうした指導をしたのであれば、160,111円とあるこれだけの金額の交付は、委員会として考えていないのか。

事務局 予算としては上限額として、計算式が要綱にあるので、それに基づき計算している。申請時に事業の内容等を確認している。

委員 では、活動内容を精査して改めて今年度の交付額を説明していただくということでよろしいか。

事務局 その通りである。

委員 P T A連合会における補助金については、収入額のうち719,159円が自主財源であり、支出額が662,237円であるから全額自主財源で間に合うのではないか。そこへなぜ30万円程度の補助金を追加する必要があるのか。

議長 コロナ禍の前の状況はわからないのだろうか。コロナ禍で十分な事業ができなかったのではないかと考えられる。コロナ禍以前の状況をみて、事業費がどれくらい必要であったか確認する必要があるのではないか。これも以前の実態を調査し精査して欲しい。

事務局 令和元年度の状況を確認させていただきたい。

委員 まだ申請書を受け付けている期間なのか。例えば、市P連であれば、総会が終わっているのでは。予算案は出来上がっていると思われるが手元にないのだろうか。

事務局 総会は土曜日にあったと思う。

委員 初めに補助金の案を承認する会議であると議長の発言があったが、改めて令和5年度の案を精査して示して欲しい。このような説明では、承認するかしないかの意思表示はできない。

事務局 承認事項ではなく報告事項であった。訂正させていただく。

委員 2回目、3回目の会議で説明はあるか。

事務局 2回目の会議で報告させていただきたい。

議長 交付金に関する審議については、広域の事務研究会の講演会において社会教育委員の役割について話があり、昨年度の会議において、申し上げた覚えがある。報告事項であれば、議題の（１）報告事項として扱うべきである。事務局でよく確認して次回の会議で説明して欲しい。

委員 補助金の比率に関して、健全な比率、何らかの基準はあるのか。

事務局 補助金の要綱があり、概ね50%となっており、特別な理由があれば、超えることも認められる場合がある。

議長 比率というのはきちんとした基準が規則などで定まっていないのではないか。基準がなければどうしても感覚的に議論しなければならなくなる。

委員 年度末の決算報告上、補助金に手を付けない場合や補助金がかかり余った場合は返還させているのか。

事務局 内容を精査して該当する活動がなければ返還していただいている。

委員 昨年の資料では、狭山市子ども会育成連絡協議会が交付団体の中にあつたが、今回は対象となっていない理由は。また、狭山市地域文庫連絡会の構成団体数が5団体になっており、昨年に比べて1団体増えたということか。

事務局 狭山市子ども会育成連絡協議会については、自己財源が増えたという理由で令和4年度の補助金申請をしないこととなった。狭山市地域文庫連絡会の構成団体数の増加については、手元に資料がなく確認させていただきたい。

議長 団体への補助金については、他の市町村も課題があるようで昨年の研修会において質問が多かった。今後、この会議での審議も慎重にしていきたい。

ウ. 狭山市における地域学校協働活動について

上記をテーマに3グループに分かれディスカッション(グループワーク)を行った。各グループの代表により、次のとおり結果発表があった。

Aグループ

地域学校協働本部、SCSC（スクスク）推進員や学校運営協議会について、形や役割がはっきり決まったものがない中、どういう感じになるのかといった視点で話し合った。スクスク推進員は、地域とつながって人材を発掘したり、地域と一体になって動けるコーディネート力が必要なのではないかと。皆が同じ思いを持っているのに意見をどこに伝えたら良いかわからない。形がしっかりしていないものを議論するのは難しい。などのいろいろな意見が出たが、この動き（地域学校協働活動）は、良い方向に行くのではないかと考えた。

Bグループ

前回の意見をベースに何か具体的な取組が進んでいるものがあるのか、また、実績体験を元に話し合った。一つのヒントとして、子ども達の意見を聞く、実行委員会などの実施主体を構成する際は、子ども達を中心に据えることが大きな方向性としてあるのではないかと。例として、地域での太鼓の取組があり、大きな太鼓の練習場所や発表場所の確保が難しくつぶれそうになった時に、子ども達に意見を聞いたところ「やりたい」とはっきりした意思表示があり、地域が支え活動が継続した。また、幼稚園や小学校で道具入れ用の袋を持っていくが、その袋を地域の高齢者が作るというプロジェクトがある。作る側の高齢者と利用する側の子ども達ができればどこかで関係を作りたい。そうしたことで、子ども達のふるさと意識の醸成にもつながるのではないかと。また、行政提案型事業で「オンラインしゃべり場」という取組をNPOで準備を進めている。いろいろな悩みを持つ子ども達に向けて、SNSを活用して声を吸い上げ、安心してつながりながら話をしてもらおうという活動である。そこに中学生がスタッフとして関わっており、大人ではわからない子ども達の思いを生き生きと伝えてもらい大変助かっている。このように、子ども達の思いや考えを細かくすくい上げる仕組みが重要であると思う。

Cグループ

話し合いの結果、資料にあるスクスクの絵（概念図）に向かっていく目標、目印が出たと思う。ふるさと意識の醸成という面では、前回の話し合いで、祭りがでた。ある祭りで、祭りのスタッフとして子ども達が参加するという提案をしたところ乗り気になった。こうしたことから「子ども達が主人公になるもの」をキーワードにして話し合いを進めた。学校であれば、部活動では全員がレギュラーや補欠の別な

くプレーヤーになる。勉強ではできる子も苦手な子も主人公として活躍できる場を作る。地域との関わりとしても、自治会長のなり手が増える、子ども達が積極的に地域の活動に参加できるといったことで、ふるさと意識の醸成につながるのではないかと。こうした意見をまとめると、スクスクの活動が狙ったところに行く「主人公感」というものを出せたところが良かったと思う。

5 事務連絡

委員から次のとおり報告があった。

- ・ 8月18日から20日まで「ハートグローバル（旧ヤングアメリカンズ）」と題して、市民会館において、子ども達の歌や踊りの発表がある。
- ・ 入間地区社会教育協議会社会教育委員部会が企画する研修会が10月（社会教育委員研修会）と2月（入間地区生涯学習フォーラム）に予定されているので、参加して欲しい。

事務局から次のとおり補助金の取り扱いに関する補足説明があった。

- ・ 社会教育法第13条において、「地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。」とされており、補助の目的は、あくまで、団体の社会教育活動への支援であることを確認いただくことがその趣旨である。ただし、資料の表の見せ方や自主財源については、調査のうえ次回の会議で改めて説明したい。また、狭山市地域文庫連絡会の構成団体数は、令和4年度に1団体増加し5団体となった。

なお、この説明に対し、委員から「去年の議論にまったく触れずに、補助金の提案説明があった。去年の意見に対しどのように対処したのかを説明して欲しかった。」との意見があった。

6 閉 会 副議長